

(大道芸の女の子)



クリスマススイブの夜。

フライドチキンやドーナツの呼び込みの声の中、買い物やら、食事やら、家路に急ぐやらで、人々の流れが慌ただしい中、駅前のプロムナードの一角で、一人の女の子が大道芸を遣っていました。

大学三年生で、今日が初めての芸の披露で、上手くいくか分からないけど一生懸命やりますから、見ていてくれるかな？とちらほら集まってきた数組の母子連れの子供達に声かけをしていました。

風がやや強い中、小さなテーブルの上に大きな毬（まり）を乗せ、更にもその上に板を乗せた状態でバランスをとりながらお手玉と一輪花を交互に投げては取り、投げては取りのぐるぐる回しをしました。

女の子は何回か地面に落ちました。

「ごめん、もう一回やるからね」

と子供達に謝ります。

そんなことを何回かしている内に子供達の間から「がんばれー、お姉ちゃん。がんばれー」の声援が起き、拍手が始まりました。

きつと子供心にも、お姉ちゃんの頑張りが分かったのだと思います。

そのうち、子供達は、そんなお姉ちゃんを見ているだけではなく、何か手伝えなにかと思ったのかどうかは分かりませんが、芸に使っているお手玉や花を手元がくるって落とすと、我がちに、それを拾いに行つて、毬の上にいるお姉ちゃんに「はい、これ、落ちたよ」と渡しに行つたりしたのです。

しばらくして芸が終わりました。終わると同時に子供達からは

「お姉ちゃん、これからも頑張つてー」「お姉ちゃん、また来てやつてねー」

の新たな声援が起きました。

それを見ていたお母さん達が、我が子らに小銭を渡して、入れてきなさいと促しました。子供達はお金を握りしめて、お姉ちゃんの持つていたハットの中にそれを入れると、お姉ちゃんは子供達にハイタッチをして「ありがとね、ありがとね」

と何度も言いました。

無論大学で大道芸なんか教えているわけがありません。ここからは僕の推測ですが、おそらくこの子は、将来大道芸で食べていこうとは思っていないでしょう。

日頃は、大学ではその他大勢の中の一人。アルバイトの時でも、多分。ネットの中では見えない誰かにすぎない毎日。確かに目立たないことで、怪我もしない代わりに何も起こらない毎日。

私、本当にこの世に生まれてきたのかしら？本当にこの世に存在しているのかしら？みんなの目にちゃんと留まって、ちゃんと見えているのかしら？

それで、この子はそのことを確かめてみたくなった。ちゃんと生まれて、ちゃんと存在していて、ちゃんとみんなの目に留まっていることを。

たとえ、恥をかいても、少しくらい怪我をしてもいいから、それを確かめてみたくなった。その方法手段が大道芸だった。のではないかと。

もちろんこれは僕の当て推量です。確信はありません。でも、そうだったら少し嬉しい気がします。

なんか、クリスマススイブの日にとってもいいものを見た気がしました。

そうして、残り少ない自分だが、どうせこの世の恥はかき捨て、ひとつ何かやってみるかなど、そんな気持ちにもなれたので、お札に子供達の後で、小銭とハイタッチをその子にして、スーパーのレジ袋を下げながら、いささか張りのある気分の家路につきました。